

# 日高軽種馬協 だより

## HBA

日高軽種馬農業協同組合

☎0146-22-2258 FAX 22-3452

令和4年4月5日

# 388

第 号

## 第51回総代会終了 全議案承認される 新組合長に古川雅且理事、副組合長に谷川貴英理事

3月11日（金）午前10時30分より、新ひだか町公民館・コミュニティセンターにおいて、日高軽種馬農業協同組合第51回総代会がおこなわれた。

本年も新型コロナウイルス感染症防止の観点から来賓の出席や表彰式を取りやめる形式での開催となった。須崎副組合長より開会が宣言され、木村組合長の開会挨拶（2頁に全文掲載）の後、議事に入った。

議長については、長浜大介氏（新冠）が選出され本人出席18名、書面決議による出席110名の計128名（出席率82.58%）の出席により総代会が成立し議事進行に移った。迅速な進行がはかられ全7号提出議案が原案通り承認された。

全議案終了後には質疑応答がおこなわれ、「セレクションセール開始予定時間は何時か。」（浦河総代）、「サマーセールとセプテンバーセールの同時申込は小頭数の場合でもセプテンバーセールへ振分けされるのか。事前に分散して申し込むために振分けの割合を明記してもらいたい。」（同総代）といった北海道市場関連に対する意見があった。これについて、木村組合長は「セレクションセールの詳細な時間に関してはこれからの委員会で検討するところ。同時申込については、大変難しい問題。

（割合などの）数字を出すとそれに縛られる危険性もある。できるだけ皆様に主体的に頭数を決めていただきたい。」と述べ、須崎副組合長は「割合については市場上場アンケートを基にして今後の委員会で検討したい。」と述べた。

また、一般組合員より「国の方でスポーツベッティングの話が出始めている。もし成立されれば競馬の売上にも影響があると懸念しているので各種機関に提案や要望をお願いしたい。また、将来的に海外のバイヤーが参加しやすい環境を整えてもらうことが馬の価格維持という意味では重要になる。」と意見があった。

第51回総代会終了後に理事会が開催され、

新組合長に古川雅且理事（門別）、副組合長に谷川貴英理事（浦河）がそれぞれ選出された。

提出された議案は次の通り。

1. 令和3年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案および注記表の承認について  
→原案通り承認
2. 令和4年度事業計画並びに収支計画の承認について  
→原案通り承認
3. 令和4年度賦課金の賦課および賦課徴収の方法について  
→原案通り承認
4. 役員報酬の支給について  
→原案通り承認
5. 系統団体等に対する出資・出えんについて  
→原案通り承認
6. 役員を選任について  
→原案通り承認
7. 退任役員に対する退職慰労金の支出について  
→原案通り承認



本年も座席に間隔を開けるなど感染対策を講じておこなわれた

## 第51回総代会 組合長挨拶

皆様、おはようございます。第51回総代会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます

総代の皆様方におかれましては、何かと繁殖シーズンの大変ご多忙のなか、ご出席を賜りまして心より厚くお礼申し上げます。また、日頃より組合事業運営に対しまして、多大なるご指導、ご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本総代会につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、表彰式等の開催並びにご来賓のご出席を取りやめさせていただくことといたしましたので、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。また、各地区振興会総会の際に開催させていただいております地域懇談会につきましても、感染症の状況に鑑み、昨年同様休止とさせていただきますこととなり、重ねてお詫び申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界全体が苦境に立たされる一年となりました。北海道市場の詳細につきましては、議案書に記載してございますので省略させていただきますが、いずれの市場も大変盛況のもと開催させていただき、売上総額145億3859万円と過去最高額を更新することとなりました。これもひとえに販売者、購買者のご理解とご協力によるものとこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本年も感染拡大防止を念頭に細心の注意を払いながら市場開催を遂行するとともに、オンラインビッドシステムを併用することにより、コロナ禍に対応した市場運営に努めてまいり所存でございます。組合員始め上場者、購買者など多くの関係者の皆様にはご理解の程宜しく申し上げます。

競馬について目を向けますと、中央競馬については、売得金総額3兆911億円と10年連続の売上増となっております。また、地方競馬についても、9645億円と、1兆円に迫る好成績となるなか、ホッカイドウ競馬においても、522億9969万円と過去最高の売上げを更新することとなりました。このうち、馬券発売の内訳は8割ないし9割がネット発売によるも

のであったということでございます。

このようななか、日高産馬が大いに活躍する年となりました。活躍馬を生産されました組合員の皆様方に心よりお祝い申し上げます。

組合事業につきましては、お陰様で各事業とも計画通りの決算を迎えることができました。昨年につき、剰余金処分案として事業分量配当（利用割戻）についてご提案させていただきました。

診療事業の二次診療につきましては、急患を除く症例に限定して徐々に再開を始めているところでございますが、獣医師の退職もあり、引き続き技術員の確保が喫緊の課題となっているところでございます。組合員の皆様にはご不便をおかけしますが、いましばらく、お時間をいただきたくお願い申し上げます。

令和3年度の新たな事業として、日高軽種馬振興対策推進協議会より当組合が業務委託を受け、旧門別種馬場内に「ひだか・ホース・フレンズ」を4月に開設し、11月より未体験者のホースマンを受入れ、既に8名の入所者を数えております。この施設は、軽種馬生産牧場の作業体験から就業に向けた研修まで、引退競走馬を活用いたしまして少しでも日高の生産牧場で若い人が働いていただくことを念頭に今後は外国人を含めた国内外の労働力の確保に向けてこの施設を有効に利用して参りたいと考えております。軽種馬産業における就業者不足改善に向けた取組みの第一歩を踏み出したところでございますが、今後も皆様方のご理解とご協力をお願いを申し上げます。

令和4年度事業につきましては、感染症防止を念頭に、特に市場開催においては、徹底した対応のもとハイブリッド方式によってセリを進めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、上程しております全議案につきましては、総代皆様方のご審議を賜り、有意義な総代会にさせていただきたくお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。よろしく申し上げます。

## 新役員執行体制について

第51回総代会終了後、第4回理事会がおこなわれ、新執行体制がスタートしました。

### 〔役員〕

代表理事組合長	古川雅且
副組合長理事	谷川貴英
理事	中脇一幸
〃	木村晃悦
〃	市川久
〃	上山泰憲
〃	田上豊
〃	前川則久
〃	白井康博
〃	田中裕之
〃	村上博之
〃	守矢正嗣
〃	庄野宏志
〃	梁川正普
〃	稲原昌幸
代表監事	谷岡康成
監事	山際景路

### 〔総務委員会〕

委員長	中脇一幸
副委員長	木村晃悦
	上山泰憲
	守矢正嗣
	庄野宏志

### 〔市場委員会〕

委員長	村上博之
副委員長	梁川正普
	市川久
	田上豊
	田中裕之
	稲原昌幸

### 〔業務・配合委員会〕

委員長	前川則久
副委員長	庄野宏志
	中脇一幸
	木村晃悦
	上山泰憲
	白井康博
	守矢正嗣
	稲原昌幸

## (社)日本軽種馬協会定期総会行われる

3月23日、日本軽種馬協会定期総会が行われ、日高より6名が理事として承認されました。

理事	古川雅且(再任)
	中脇一幸(〃)
	木村晃悦(〃)
	前川則久(〃)
	谷川貴英(新任)
	村上博之(〃)

## 理事会の内容について

### 【第4回理事会】

◇令和4年3月11日 総代会終了後 新ひだか町公民館

#### 〈議案〉

1. 代表理事組合長の互選について
  2. 副組合長の互選について
- その他

### 【第5回理事会】

◇令和4年3月17日 13時30分 静内支所

#### 〈報告事項〉

1. JBBA第1回理事会の内容について

#### 〈議案〉

1. 職位代理順及び議席について
2. 委員会構成について
3. 余裕金の預入先の決定について
4. 退任理事に対する退職慰労金の支払方法について
5. 理事報酬の支給並びに支給方法の決定について
6. 参事の選任について

#### 〈協議事項〉

1. JBBA理事の選考について
2. その他

# ひだか・ホース・フレンズたより



ひだか・ホース・フレンズは、当組合が日高軽種馬振興対策推進協議会からの委託を請け、日高地域活性化支援室の事業として引退競走馬の利活用推進事業、軽種馬人材養成事業、馬産業の啓蒙普及事業を実施しております。2022年3月現在の運営状況についてお知らせいたします。

- 施設 日高軽種馬農協門別種馬場施設（日高町緑町）  
研修生宿舎として職員住宅を活用（最大収容3名を男女別で運用）
- 飼養馬 8頭（ディープスカイ・メイショウサムソン・バトルプラン・クレスコグラン  
ド・メイショウアイアン・コンドルショット・ハフリンガー種2頭）
- 研修指導スタッフ 2名

## ○軽種馬人材養成事業について

- ・ お仕事体験プログラム（2泊3日からの就業体験）

昨年秋の募集開始から3月まで11名が参加しました。修了生の中から管内牧場就職内定者や就農養成プログラム移行者を輩出し、半数以上の方が馬産業の道へ進まれています。

- ・ 就農養成プログラム（最長3か月間の就農就職訓練）

就農・就職を目指すカリキュラムで、約2か月の間施設内で実習馬を用いた厩舎作業・手入れ・集放牧などの基礎研修を行い、次の1か月間を研修先牧場へ赴いてのインターン・実地研修期間として設定しております。1月の開始からこれまで3名の参加があり、今後修了生を輩出してまいります。

## ※ 研修生を受け入れるためには？

研修生の求職活動は研修生自らハローワークを通じて行うこととしています。このため、採用時点においてハローワークへの求人登録が条件となります。

事務局では、牧場選択の参考資料となるよう、受入可能な牧場をリストアップし、研修生へ資料提供を行います。研修生の実地研修や就職について受入を希望する方は、研修生受入条件、雇用条件について、ハローワーク求人票情報（後日求人申込を行う予定の場合は労働条件通知書など）を各地域のJAを通じて情報提供を頂きますようお願い致します。

○一般来場者による牧場見学は、当面の間見学不可としており、準備が整い次第開始する予定です。

○研修の参加申し込みについてはWEBサイトのフォームなどで受付しております。

○ひだか・ホース・フレンズではWEBサイト・各SNSで情報発信を行っております。

<https://www.uma-tomo.com/>



○ 令和4年度 ホッカイドウ競馬開催日程

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
																門①					コスモバルク記念								北斗盃		門②
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
				エトワール賞											門③				ヒダカソウカップ											門④	
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
		*北海道スプリントカップ											門⑤			北海優駿			門⑤					赤レンガ記念					栄冠賞		
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
		門⑥			グランシャリオ門別		ノースクイーンカップ								フルールカップ		門⑦					星雲賞							ジュニアダーズゴールド		門⑧
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
										フローラルカップ	*フリーダーズゴールドカップ			門⑨		王冠賞									サッポロクラシックカップ				門⑩		
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
								イノセントカップ			門⑪					旭岳賞						リリーカップ	サンライズカップ		門⑫					ウボボイオータムSP	
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
				プロツサムカップ					門⑬					瑞穂賞							*エーデルワイス賞		門⑭								
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
			*JBC2歳優駿		門⑮					道営スプリント	道営記念																				

\* ダートグレード競走

## 寄生虫対策の考え方について

静内診療所 前田昌也

少しずつ雪解けがすすみ、放牧地に新しい草が目立つ季節になってきました。新生仔馬の病気が増えるとともに、寄生虫に対しても気を遣う必要があります。

私自身これまで「駆虫はとにかく怠ってはいけない。高価かもしれないがしっかり駆虫薬を与えるように」と説明することが多かったのですが、駆虫薬に対する耐性を獲得した寄生虫の問題が世界で浮上してから、専門家からは様々な提言がされています。

その中でも①「必要以上の回数・不要な時期まで駆虫薬を使用してはいけない」一方で②「一度の駆虫における投与量を少なくしてはいけない」という二点は柱となる原則だと受け止めています。

まず①は上記にある以前の私の考え方と異なるわけですが、回数が多いほどしっかり駆虫できるというわけではない。一方で、薬剤耐性を促進するきっかけにはなってしまう。だからこれでもかと駆虫を頻繁に実施するのは避けていかなければいけない、必要十分に駆除できる間隔と時期を守るべきということになります。近年の成書やガイドラインの例を挙げると、生後12ヶ月（1年）で4回だとか、生後15ヶ月で4～5回などが謳われており、成馬では必要な回数が減ります。

一方、②は以前の方針に近いものです。少ない用量で使用することは耐性を生み出す要因になることが分かっているようです。したがって駆虫を実施するときは中途半端ではダメで、馬体重に基づき適切な量を投与しましょう。関連して、最初に実施する駆虫については確実に駆除できるように、耐性が危惧されている薬剤は選択しないほうが良いともされています。



具体的な製品名を挙げるほうがわかりやすいかと察しますが、販売面等に影響する話は難しいため今回は控えさせていただきます。かかりつけの先生と相談の上で何を使用するか決めましょう。

日高の地に完璧に当てはまると言えるのかどうかかわからないかもしれませんが、これからまた変わるのかもしれませんが、また国内で入手できる馬用の駆虫薬にも限りがあり、世界で言われている通りにできないこともあるかもしれません。そんな中でも、考え方はある程度把握しておくことが望ましいでしょう。

参照

AAEP Parasite Control Guidelines  
緑書房「馬の寄生虫対策ハンドブック」